



Disaster prevention Expert News

東北地方 防災エキスパートだより

2007.7
vol.10

発行:平成19年7月20日

東北地方防災エキスパート事務局 TEL.022-268-4454((社)東北建設協会内)

明日は東北かも “地震・津波は必ずやってくる”

防災対策官 菊池 恭三

現在の長岡市に甚大な被害をもたらした新潟県中越地震（H16.10.23）から約2年半、復興事業にも目処がつつきつつある矢先の3月25日、今度は石川県能登でマグニチュード6.9の地震が発生しました。負傷者は300名を超え、1名の方が亡くなりました。家屋の被害は全・半壊約1600棟、一部損壊約9100棟に及びました。（気象庁は2007年能登半島地震と命名しましたが、地震の命名は新潟県中越地震以来のことです。）能登半島は今後30年以内に震度6弱以上の地震に見舞われる確立は、0.1%未満と言われていた地域であり、日本はどこでも強い地震が起こる可能性があることを改めて示しました。

私は3月まで技術事務所にいましたが、地震翌日の26日、先遣隊として本局の方々3名と被災地の調査を命ぜられ輪島市に向かいました。能登有料道路は能登半島の山側の盛土区間が崩壊して途中から全止め、能登半島の海岸線を周回しているR249も寸断された状態でした。

旧輪島市内では倒壊家屋を所々で見かけましたが、比較的被害は少なく商店等もほぼ平常通り営業しておりました。被害が集中したのは旧門前町で、多くの家屋が倒壊・半壊の被害を受けていました。

ただ、地震規模は中越と同等であったにもかかわらず、各種施設等の被害は中越と比べて少なく、中越ほど地質が脆弱でなかったことが幸いしたと言われております。

このような地震による被災は少なからず毎年有り、危機意識は多くの方が共有している反面、東北では日本海中部地震以降津波による大きな被災はなく、防災機関が津波の驚異を広く周知させる活動しているものの、津波警報発令時の避難割合を見ると、まだ危機感は不十分に思えます。

このような中で、7月29日に大規模な津波防災訓練が気仙沼市を主会場に開催されます。これはスマトラ島沖地震による津波被害を踏まえ、3年前から国土交通省の主催で始まったものです。

日本海溝・千島海溝周辺海溝型の地震対策が円滑に行えるように東北地方の関係機関で2月5日に連絡協議会が設立されましたが、今回の訓練はこれらの機関を主体に実施するものです。

防災エキスパートの皆様にも是非足を運んでいただければ幸いです。

平成19年度 大規模津波防災総合訓練

今後30年以内に99%の確率で発生するといわれている宮城県沖の地震や、明治三陸型の地震など日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震は、甚大な被害が出る想定されています。これらの地震津波による被害の軽減を目指して、大規模津波防災総合訓練を行います。

【対象】住民の避難訓練、地震津波情報の収集・伝達、漂流者救助・救急、応急復旧、物資輸送訓練等を沿道地域住民と防災関係団体・機関が協力、連携し実施します。

【メイン会場】**気仙沼市気仙沼港**
【サブ会場】**石巻市石巻港**

【開催実施日】平成19年7月29日 午前9:00~12:00

【主催】国土交通省 【協賛】内閣府 【受託】公益法人財団法人

【参加費】無料

【お問い合わせ先】気仙沼市防災対策課 電話:022-222-2222

洪水対応演習が行われました



樋管周辺状況把握活動

計画高水位を超過する大規模出水を想定し、本番同様の情報伝達や洪水対応を演習し、来る出水期に備えるものとして5月11日洪水対応演習が行われました。

青森、高瀬川、岩手、北上川ダム統管、秋田、山形、酒田、新庄等の事務所で延べ20名の防災エキスパートの方々が出動されました。

以前は通報連絡がメインで実際の出動はあまり無かったのですが、最近は大出動員数が大幅に増加してきています。

青森河川国道事務所管内で水防工法訓練が行われました

5月15日には、岩木川右岸五所川原地区で6名の防災エキスパートの方々が、また、5月17日には、馬淵川左岸根城大橋下流域で2名の防災エキスパートの方々が水防工法訓練の指導を行いました。

整備局の職員の方、地方自治体、水防団及び消防団の方々を対象として、木流し工やシート張り工、土のう作り、縄結びなどの実施指導を行い、参加された方々は熱心に学習されました。



青森河川国道事務所管内で重要水防箇所合同巡視が行われました



青森河川国道事務所管内で、整備局、地方自治体、水防団及び防災エキスパートとの重要水防箇所への共通認識を図るための合同巡視が行われました。

5月21日に五所川原出張所管内、5月22日に藤崎出張所管内、5月28日に八戸出張所管内で合同巡視が行われ、延べ20名の防災エキスパートの方々が参加され、水防上特に注意を要する箇所の点検を行いました。

山形河川国道事務所管内で防災エキスパート意見交換会が行われました

山形河川国道事務所では、災害対応時の防災エキスパートとの連携強化を目的とした現場点検と意見交換会が行われました。

5月21日の山形国道維持出張所を皮切りとして、5月22日寒河江出張所、6月4日米沢国道維持出張所、6月6日寒河江国道維持出張所、6月11日新庄国道維持出張所、6月12日尾花沢国道維持出張所、6月20日長井・南陽出張所の各出張所で現地点検と意見交換会が行われ、延べ36名の防災エキスパートの方々が参加しました。



その他の活動

- ・4月24日、秋田河川国道事務所管内子吉川の護岸に変状が見られ、防災エキスパートの方1名が現地調査に出動しました。
- ・5月26日、5月27日の両日、山形河川国道事務所からの要請で山形市消防本部の方々に水防工法の指導を行うため、延べ4名の防災エキスパートの方々が出動しました。
- ・6月2日東北管内北上川下流水防演習（参加規模約4000名）に25名の防災エキスパートが参加し防災対策の研鑽を高めました。

編集後記

5月1日付けで、東北地方防災エキスパート事務局を担当することになりました。大嶋前防災調査部長同様よろしくお願いたします。

防災エキスパート制度が発足し11年目に入り現在は871名の方が毎年災害支援として専門分野で活躍しております。とくに地域の防災力を高めていくことは大きな意義のあることです。現役時代に培った技術と経験、ノウハウや知見を生かし組織としての力を高めながら整備局の防災業務に対する支援を通じて地域に役立っていきたく考えています。近い将来高い確率で起きるとされる宮城沖地震、異常気象による集中ゲリラ型災害等予知できない現状ですので日頃から連携強化し支援時には迅速に対応図るような取り組みをしたいのでよろしくお願いいたします。

防災調査部長 山内芳朗 記